

文部科学省「リカレント教育エコシステム構築支援事業」
千葉大学「ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテクマスター育成プログラム」
受講生募集要項

〔プログラム概要〕

超高齢少子社会に直面する日本では、介護ロボットをはじめとするケアテクノロジーを活用し、利用者の自律・自立を支援しつつ、介護者の負担を軽減することが喫緊の課題となっているものの、その導入率は依然として低い状況にある。本事業では、自分らしく最期まで自律・自立できることを支えるケアテクノロジーの開発および社会実装を推進できる人材「ケアテクマスター」を育成し、ケアテクノロジーを通じて生産性の向上とケアの質の向上を図るとともに、ヘルスケア産業を含むケアテクノロジー産業全体の成長を実現することを目指している。ケアテクノロジーとは、介護ロボットに限らず、人間のウェルビーイング（well-being）に貢献するあらゆる技術、ロボット、システム、アプリケーション、機器などを包含するものである。

〔プログラム到達目標〕

- ① 最先端のケアの知識を有し、ケアの観点から未来社会を描くことができる。
- ② 開発と実装に必要な共通言語、対話とコンフリクトの解決、専門職連携実践、コ・デザイン、実装戦略フレームワークの最新知識を有し、医療介護現場で持続的に利用されるケアテクノロジーの開発と実装の必要性を理解できる。
- ③ 医療介護従事者と企業人の専門職連携実践によって、開発と実装に関する事業展開を改革できる。

1. 募集人員（各科目とも定員を超える応募があった場合は、審査等で受講者を決定する。）

次の科目ごとに募集

・基盤科目 1

医療介護従事者 100 名、企業人 100 名

・基盤科目 2

医療介護従事者 50 名、企業人 50 名 ※ただし基礎科目 1 を履修したものとする。

・ワークショップ

医療介護従事者 15 名、企業人 15 名 ※ただし基礎科目 1、2 をすべて履修したものとする。

2. 応募資格

1) 医療介護施設・企業からの派遣であり、かつ次のいずれかの資格を有する者

(1) 医療施設：看護師長クラス以上

(2) 介護施設：副施設長クラス以上

(3) ケアテクノロジー開発企業：主任クラス以上、開発経験を持つ熱意のある若手

(4) ケアテクノロジー販売企業：主任クラス以上

2) その他：スタートアップ企業、ケアテクノロジー関連の研究開発者、介護生産性向上総合相談センター（都道府県設置）職員の方など(個人での応募可)

3. 応募手続き

1) 受付期間（各科目等共通）

令和 7 年 8 月 1 8 日（月）～令和 7 年 9 月 2 5 日（木）まで

2) 応募方法 次の URL のフォームに入力

URL : <https://app.gakken-meds.jp/cbu-re25/pre-register>

QR コード



※「千葉大学大学院看護学研究院 HP/お知らせ」、「看護学研究院附属専門職連携教育研究センターHP/お知らせ」からも応募できます。

4. 受入審査

応募フォームより各科目の受入状況及び応募資格確認等により、総合して判定します。

5. 受入結果の通知

令和7年10月1日（水）

（応募フォーム記載のメールアドレスに通知）

6. プログラム受講について

本プログラム受講を認められた者は、次の科目等を受講することができます。

なお、本プログラムでは各科目等の事前・事後及び修了1年後に簡単なアンケート調査を行います。

開催時期・回数	科目名・到達目標（予定）	時間
2025年10月～11月 オンデマンド15回 無料	基盤科目1：ケアが目指す未来社会 1 未来社会を描くための基本知識と最先端ケアを理解できる。 2 ケアの観点から未来社会を描ける。	全15回/ 15時間
2025年11月～12月 オンデマンド12回 現地開催3回 無料	基盤科目2：ケアテクノロジーのコ・デザインと実装戦略 1 ユーザーと企業人との対話を目指して、ケアテクノロジーのニーズ、シーズを理解できる。 2 ユーザーと企業人の相互理解と共通言語の獲得によって対話とコンフリクトの解決の重要性を理解できる。 3 専門職連携実践の基本知識を学び、エコシステム構築に向けたユーザーと企業人とのコ・デザインの必要性を理解できる。 4 エコシステム構築に向けたケアテクノロジーの実装戦略枠組みの必要性を理解できる。	全15回/ 16.5時間
2026年1月 現地開催 無料	ワークショップ：ユーザーと企業人がともに考えるケアテクノロジーの開発・実装戦略 ユーザーである医療介護従事者と 開発・販売企業の専門職連携実践によって、ケアテクノロジーの開発と実装に関する戦略を立案し、今後、自身と所属組織が取り組むべき課題と解決策を明確にできる	全1回/ 3時間
計		34.5時間

7. 受講料

各科目とも無料

8. 修了証書

- ・基盤科目1、2およびワークショップのすべてを履修した30名に千葉大学から「ケアテクマスター」デジタルバッジを付与します。
- ・基盤科目1、基盤科目2を履修した者には、千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター（IPERC）よりそれぞれ修了証書を授与します。

9. 各科目・ワークショップの概要紹介

■基盤科目1：ケアが目指す未来社会

開催時期 令和7年10月8日～11月7日

開催方法 オンデマンド（15回/1時間）

各回とも1時間（動画コンテンツ15分×3編、確認クイズ、ミニレポート）

単元	主な学習内容
1.未来社会の描き方&つくり方	未来社会の方向性、バックキャスト思考、エコシステム

2.未来社会を実現するビジョンのつくり方1	ビジョン形成の具体的方法と実際
3.未来社会を実現するビジョンのつくり方2	ビジョンの共有
4.日本の医療	医療制度、診療報酬、多職種の役割、入院生活
5.日本の介護	介護制度、介護報酬、多職種の役割、在宅での療養生活
6.医療介護における在宅移行	在宅移行期、家族介護、各種制度の活用、生活の変化
7.ロボット大国日本とエンジニアリングの発展	ロボット大国日本の歴史、エンジニアリングの発展
8.エンジニアリングの未来	エンジニアリングの未来社会への貢献
9.未来社会をつくる実装科学	実装科学の概論
10.ケアの革新と実装科学	実装科学に基づいた革新的ケアの実装事例
11.未来社会をつくるエコシステ	エコシステムのつくり方、ステークホルダー
12.医療介護における情報科学と未来社会	医療介護における情報の可能性、情報科学によるケアの革新
13.AI とケアテクノロジー	AI の理解、生成 AI、AI とケアテクノロジーとの関係
14.ケアテクノロジーとアントレプレナーシップ	アントレプレナーシップ、ケア領域のアントレプレナー
15.未来社会と倫理	ケアと倫理、ケアテクノロジーと倫理、日常倫理

■基盤科目2：ケアテクノロジーのコ・デザインと実装戦略

開催時期 令和7年11月～12月

開催方法 第1回～12回：オンデマンド

各回とも1時間(動画コンテンツ15分×3編、確認クイズ、ミニレポート)

第13回～15回：現地開催

2025年12月27日(土) ベルサール神田(1.5時間×3回を同日開催)

受講条件 基盤科目1を履修した者

単元	主な学習内容
1.ケアテクノロジーの必要性和課題	-ケアテクノロジーの開発と実装の社会的背景(超高齢少子社会、長期ケア、女性の活躍、ロボット密度) -施策 -これまでの開発状況(海外も含めて)
2.エコシステム構築とコ・デザイン	-エコシステムの重要性 -ケアテクノロジーの開発と実装におけるステークホルダーと役割 -ケアテクノロジー開発の現状と課題 -生成AIの上手な活用 -コ・デザインの必要性和開発のプロセス
3.専門職連携実践のためのユーザーと企業人との共通言語	-ケア現場の理解ー組織運営と人材を中心にー -ケア現場の理解ーケアの実際を中心にー -ケア現場の理解ー建築環境を中心にー -企業の理解ー組織、人材、開発現場、共同研究)

	-ケアテクノロジーの開発と実装に向けてユーザーと企業人が知っておくべき共通言語 -専門職連携実践のためのチームコミュニケーション
4.対話とコンフリクトの解決	-企業人が有する価値観がケア現場に与える影響 -ユーザーが有する価値がケアテクノロジーの実装に与える影響 -コンフリクトの解決を目指したアプローチ方法 -コンフリクトの解決を目指したチーム内コミュニケーションの実際
5.意思決定能力が低下した人を対象とする研究の倫理的配慮	-研究倫理の基本 -インフォームド・コンセント -認知症の人の意思を表明する力 -同意を得る場面での倫理的配慮 -家族や周囲の人による代諾と倫理的配慮
6.医療介護現場におけるより良いケアの実装	-医療介護現場へのより良いケアの実装を阻む“聖なる牛”（慣習に基づいたケア） -より良いケア、より良いケア環境とは何か -より良いケア、より良いケア環境の実装を阻む要因 -ユーザーの日常生活におけるケアテクノロジーの利用状況と阻害要因
7.ケアテクノロジー実装戦略フレームワーク	-EBP(Evidence Based Practice)における実装の理論・モデル・フレームワーク -EBP における実装の理論・モデル・フレームワークを基盤としたケアテクノロジー実装戦略フレームワーク
8.ケア現場の声を大切にしたテクノロジー開発と実装	-ケア現場の声を大切にしたテクノロジー開発と実装の実際 -ケアスタッフと企業人がお互いに留意すべきこと
9.ケアテクノロジーの開発と実装の成功事例 1	-ケア現場におけるテクノロジーの導入事例（ケアテクノロジーの選定、実装のための組織体制、効果的な利用のためのルール作り、活用の実際と評価） ・インカム ・電子カルテ ・非接触型睡眠計
10.ケアテクノロジーの開発と実装の成功事例 2	-ケア現場におけるテクノロジーの導入事例（ケアテクノロジーの選定、実装のための組織体制、効果的な利用のためのルール作り、活用の実際と評価） - ベッドセンサー 24h オンコールシステム
11.ケアテクノロジーの開発と実装の成功事例 3	-ケア現場における自律走行型ロボットの導入事例 -ケアテクノロジーの選定 -実装のための組織体制 -効果的な利用のためのルール作り -活用の実際と評価
12.ケアテクノロジーの開発と実装に必要な専門職連携実践	-専門職連携実践が必要となる社会的背景 -専門職連携実践の基本的考え方

	-専門職連携実践のコンピテンシー -医療介護現場での専門職連携実践 -地域包括ケアシステムにおける医療介護現場と企業の役割
13.ケアテクノロジーの開発と実装のための専門職連携実践グループワーク	-アイスブレイク -グループワークのグラドルール -ユーザーと企業人の役割の相互理解 模造紙、付箋紙、ペン等を用いたグループワーク
14.医療介護現場の聖なる牛の発見とケアテクノロジーの開発・実装の可能性グループワーク 1	-医療介護現場の聖なる“聖なる牛”（慣習に基づいたケア）の発見 -聖なる牛からケアテクノロジーへの転換を目指す戦略 模造紙、付箋紙、油性ペン等事務用品を用いたグループワーク
15.医療介護現場の聖なる牛の発見とケアテクノロジーの開発・実装の可能性グループワーク 2	-“聖なる牛”（慣習に基づいたケア）からケアテクノロジーへの転換を目指す戦略 -学びの共有

■ワークショップ：ユーザーと企業人がともに考えるケアテクノロジーの開発・実装戦略

開催日時 令和 8 年 1 月 25 日（日） 13：30～18：00

開催場所 大手町サンケイプラザ

東京都千代田区大手町 1-7-2（03-3273-2230）

受講条件 基盤科目 1 及び基盤科目 2 を履修した者

項目	具体
1.目 的	ケアテクノロジーの開発と実装に関する戦略を立案、展開することができる
2.目 標	医療介護従事者と企業人がオンデマンド学修での学びを確認し、ケアテクノロジーの開発と実装に関する戦略を立案し、今後、自身と所属組織が取り組むべき課題を明確にすることができる
3.日程・会場	日程：2026 年 1 月 25 日（日）13:30～18:00 会場：大手町サンケイプラザ 本教育プログラムでの学びに関するインタビュー調査（1.5 時間）も含む
4.参 加 者	医療介護従事者 15 名 ケアテクノロジーの開発企業および販売企業の職員 15 名
5. プログラム	1)開会 2)ショート講義 2 科目での学びの確認 3) アイスブレイク 4) グラドルールの説明 5) ユーザーおよび企業人で編成されたグループでのコ・デザインによるケアテクノロジーの開発と実装戦略の検討・発表 6) 総評 7) インタビュー 8)閉会

10. 問い合わせ先

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター（IPERC）

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

担当者：犬山 彩乃、姜 文熙、國武 由香里

責任者：諏訪 さゆり E-mail：nursing-caretech@chiba-u.jp